Ｈ２６年　インターハイ雑感

今年のインターハイは、千葉県立総合プールでおこなわれた。今年からブロック枠が撤廃となり、競技種目に公開競技ではあるがシンクロダイビングが板のみおこなわれた。枠を撤廃した関係で予想人数は４０人をこえるかなと思っていたが、男女とも３３人までの出場権獲得者たちであった。この数字を見てもいかに各地域とも適正にジャッジをしているかということがわかる。適正といっても、数字的にはやや少ないように思える。これは地域参加者が少ない結果であろう。

話はよこにずれるがではなぜ、少ないのかということだ。コーチ・選手の関係はすごい関係ができている。強い選手ができている。コーチがそれに付きっ切りで指導してはいないか？ということだ。これでは強い選手ができても、数とすれば１名である。そこで、私は提案する。各県５名の指導者を有さなければならない。という１行を何かのルールでも役員必携でも入れたらよいと思う。そうしないと飛び込み競技自体の存在がなくなってしまうような気がする。今のうちに手を打つべきである。また、そうすることによって、全国中学と全国高校が重なっても何の心配も要らない。

さて、競技のほうは注目はやはり女子では榎本遼香（作新学院）男子は須山晴貴（松徳学院）の２人のはずであった。女子では榎本を中心に進んだが結局、３Ｍ 板の優勝は佐々木那奈（甲子園学院)。男子の方は３Ｍ では予選で１位が須山２位が荒木（帝京長岡）であったが決勝では１位のプレッシャーからか細かいミスが続いたが、自由２種目目互いに１０７Ｂ であった。この出来で決まったといってよい。しかし、須山はまだ２年生。あのプレッシャーの中最後の５３３７Ｄを初めて決めたのであった。８２．２５点。荒木に１．２５の差で２位に甘んじた。来年に期待しようと思う。女子のほうでもう１人、金戸　華（日出）である。両親ともオリンピック選手であり、飛び込み自体がしっかりしている。今後、伸びてくる選手である。

それと、シンクロダイビングである。どうなるものかと思っていたのだが、いざふたを開けてみると競技数が少ないせいかすごく様になっていた。

大会運営からみると、もう少し連絡が徹底したほうがよい。プレゼンターを急に言われたり、審判員の整列であるとか。もう少しそこらへんが徹底できたら、もっとすばらしい大会になったといえる。この大会は東日本大震災復興支援大会として位置づけられた。その面からすれば去年男子１名だけであった秋田県の参加は、今年は男女１名ずつであった。非常に喜ばしいことであった。